

白川町 黒川（北黒川）地区

令和4年度

【地域の概要】

- 白川町は、岐阜県の中南部にある加茂郡の東部に位置する人口8千人余りの町で、町全体の面積の約88%が山林である。
- 地区は5つ（佐見・黒川・白川・白川北・蘇原）に分けられ、町の農地面積は707ha、うち201haが集積されており、集積率は28.4%（R5.3.31時点）となっている。
- 黒川地域では、お茶の栽培が盛んであり、昨年度は（農）鱒淵茶園への集積を実施するなど、多くの地域で集落営農を中心とした経営体への集積・集約化が進められている。

①取組開始前の状況や課題

担い手確保・圃場条件の課題

町内全域が中山間地のため、小規模な農地が多く、利用集積による規模拡大が進まないのが現状である。

集落営農組織が存在する地区においては、当該組織を中心とした集積・集約化の取組を行っているが、組織の運営を行う担い手や、認定農業者等の確保が課題となっている。

北黒川地区（（農）北黒川営農）の状況について

令和3年3月に農事組合法人北黒川営農として法人が成立し、初年度は177筆、耕作面積13.1haの農地について品種「コシヒカリ」を作付けし農業経営を実施。

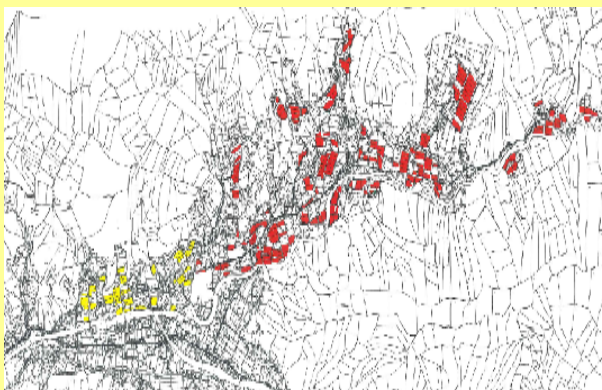
②取組内容

地区における話し合いの実施（令和4年7月）

日面下営農組合から（農）北黒川営農への加入について、令和3年度から検討会を継続して実施。最終的に17名の組合員が加入。

（農）北黒川営農への農地集積（令和5年1月）

農地中間管理機構を活用し、（農）北黒川営農へ約3.4haの農地を集積。



（農）北黒川営農の集積地（黄色が新規集積地）

③今後の展開と方向性

農家の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加といった問題の解決

農地の集積化により、まとまった農地を耕作でき、農作業の効率化が図られ、コストを抑えられるとともに、収益の向上にも繋がる。

組合員の連携強化

農地の水管理、病虫害の状況把握と情報提供、効果的な栽培管理の研究の実施、効率的な作業内容に向けた技術の習得に取り組み、農業経営における改善を図っていく。